（建物等不動産賃貸借契約を引き継ぐ場合の覚書の例）

覚　　　　　　　書

〈記入例〉

　○○不動産（以下「甲」という。）と、○○　○○（以下「乙」という。）は、甲乙間で締結した○○年○○月○○日付け賃貸借契約（以下「契約書」という。）の乙の表示に関し下記のとおり取り決めた。

記

契約書における乙の表示は、乙が川崎市長に申請中の医療法人の設立が登記された日をもって「医療法人○○会」（理事長（氏　　　名）、（法人の住所））と読み替える。

賃貸借契約期間終了後も、契約を更新し、診療を継続できるよう努める。

本覚書の成立を証するため本書２通を作成し、当事者各１通を所持する。

　　　　　　年　　月　　日

甲　　住　所

　　　会社名

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　代表者名

乙　　住　所（自宅の住所）

　　　医療法人○○会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　設立代表者

（作成上の注意）

１．下記の２つの要素を満たすものであれば、「不動産賃貸借契約引継承認書」「念書」「確認書」等その様式、形態を問わないこと。

　　　・賃貸人を個人から法人に引き継ぐための「読替の特約」

　　　・長期間にわたり賃貸借契約を継続することの保証

２．貸主が複数である場合には、甲欄を連名で作成するか、貸主ごとに作成するかいずれかの方法で構わないこと。

３．改めて賃貸借不動産契約を締結する場合は、上記１の２つの要素を満たし、設立代表者として契約を締結すること。